

大患難時代のイスラエル

2026年5月24日

ヨハネの黙示録 12章

序：患難期前半～後半の中間期に起こること（12～14章は長い挿入部分）

1. イスラエルの苦難の経緯 1～5節 (創世記 37章)

女=イスラエル 太陽=ヤコブ 月=レケル 12の星=12人の息子
赤い巨竜=古い蛇、悪魔、サタン、全世界を惹かず者 1/3の星=墜落した天使
女の産んだ子=メシア、イエス・キリスト (贖いの死 → 復活 → 昇天)
∴女=教会と解釈する置換神学は誤り

(2)イスラエルの逃避 (大患難期の中間) 6節

①荒野 マタイ24・15～22 ②神の備えた場所 ミカ2・12～13
③1260ヨ (後半) 滞在 ボズラ、ペトラ

(3)天での戦い ⇒ 地に落とされるサタンと悪霊 7～12節

①ミカエル+御使いたち (勝利) VS 竜+使いたち (敗北、地に投下)
第三の天 (神のいます所) ↓
第二の天 (宇宙) 第一の天に住みながら第三の天
第一の天 (空中) に往來できた: EPH2・2, 371～2章
地上にも下りて来る マタイ2

②天の宣言：神のキリストの権威・勝利 / サタンの天⇒地への追放 (地に災い)
殉教者たちのサタンに対する勝利 (喜び)
地 (特にイスラエル) は悪魔の激しい攻撃にみまわれる

(4)イスラエル滅亡に猛進するサタンの働き 13～17節

- ①地に投下された後、メシアの再臨を阻むため全力でイスラエル滅亡に動く
執拗な追跡、大水・洪水=軍事的勢力で一掃を謀る
- ②神の守り=大きな鷲の翼 (飛んで行けるよう)、地が大水を飲み干す
神の備え=逃げる場所・ボズラ (ペトラ)、養い
- ③激しく憤り、怒り、残りの民 (神の戒めとイエス・キリストへの信仰) を
滅ぼすための本格的な戦いを展開するスタート点に立つ

結び：旧約時代～終末 (特にイエスの初臨と再臨間近に、サタンの破壊工作強まる)
最初は救い主の誕生およびそのご生涯を抹殺して贖いをさせないため
二度目は、再臨を妨害し、実現しないようにするため (自分へのさばきを避ける)
悪魔、悪霊はいつでも存在し活動していたが、特にイエスの初臨と公生涯の時と
再臨間近～大患難期が著しく激ましい